

日本人と外国人住民の相互理解のきっかけとするため、「外国人による日本語スピーチコンテスト」を20年以上続けている熊谷市国際交流協会を紹介します。

「日本語スピーチコンテスト」で外国人住民の思いを知る

熊谷市国際交流協会では、「外国人が日本で不自由なく生活できるように」との願いで日本語教室を開いています。その学習の中で学習者が話す熊谷市の印象や母国との習慣の違いは、日本語ボランティアにとって驚きや感動の連続です。「ぜひ地域の人たちにも聞かせてあげたい。そうすればもっとお互いに理解が深められるのでは」「日本語学習の成果を発表する機会が必要」との思いから「外国人による日本語スピーチコンテスト」を1993年から開催しています。

2015年は13人が出場し、約180人もの来場者で盛況でした。発表者からは「緊張したが楽しかった。応援に来てくれた仲間や他の出場者、来場者と交流が持ててうれしかった」来場者からは「出場者が一生懸命



語る姿に感激。好感がもてた」「日本に対するさまざまな思いを知り、面白かった。家族や友人にも伝えたい」との感想をいただきました。スピーチ終了後には交流会を開催し、発表者と来場者が直接交流を図りました。

熊谷市国際交流協会では、「日本人、外国人がそれぞれの生活習慣・文化を理解し、地域住民との交流の架け橋となれるよう、「更なる日本語教室の充実」と「日本語スピーチコンテスト開催の継続」が重要」と考えています。

私たちの住むまちを のぞいてみよう!

—外国人と共に暮らし、共に地域を支える—

Part 2

南米出身の児童が多く在籍している行田市立太田西小学校を紹介します。

料理をしながら保護者同士の交流を図る

太田西小では、日本人と交流する機会が少ない外国人児童の保護者と日本人保護者の交流を図ろうと、毎年、調理実習を行っています。

5回目となる今回は、埼玉県国際交流協会の外国人講師を招き、ペルー料理を作りました。参加したのはブラジル、ポリビア、ペルーの国籍の児童保護者と日本人保護者21人。日本語がよくわからない保護者には県の国際交流員が通訳をし、あらかじめスペイン語やポルトガル語のレシピを作成し、保護者同士、和気あいあいと調理を進めました。

また、保護者同士が協力することで、作業はもちろん、食事の際も自然と笑顔が生まれ、会話も弾んでいました。この交流会を継続して行っていることで、保護者同士が顔見知りになり、気軽に声をかけ合うようになっています。

今後、太田西小のような活動が地域に広がってほしいと思います。



埼玉県国際交流協会は 外国人住民が地域で不自由なく暮らせるようサポートしています

「外国人総合相談センター埼玉」の運営

外国人住民の中には、日本語や日本のルールがわからないために様々な悩みを感じている人が大勢います。外国人住民が地域づくりのパートナーとなるには、自立した生活ができる必要があります。そのためには、日常生活で困ったときに相談できる窓口が必要です。

そこで、「外国人総合相談センター埼玉」では、8言語とやさしい日本語で①生活全般の電話相談②出入国制度、雇用・労働、法律の対面相談——を実施しています。

電話番号 **048-833-3296**
 受付時間 月曜日～金曜日 午前9時から午後4時まで
 *祝日、12月29日から1月3日までを除く。
 対応言語 英語、スペイン語、中国語、ポルトガル語、
 韓国・朝鮮語、タガログ語、タイ語、
 ベトナム語、やさしい日本語

高校進学を応援! 「高校進学ガイダンス」の実施

家庭の理由などで外国から学齢期に来日した子どもたちは、日本語での学習が十分身につけていない状況で、高校受験という高い壁にぶつかります。

そのような子どもたちの高校進学を支援するため、当協会では毎年「日本語を母語としない子どもと保護者の高校進学ガイダンス」を開催しています。

今年度は9月19日(土)に実施。会場には、中国、フィリピン、ペルーなど11か国の子どもや保護者94人が参加し、日本語支援者など10人と通訳20人のボランティアスタッフの協力を得て、外国人特別選抜の実施校や、日本で受験資格を得るための資格認定などについて説明を受けました。



通訳ボランティアは心強い味方です

※ガイダンスで配布した資料は協会ホームページに掲載していますので、ぜひ学校等でご活用ください。相談窓口など、関係機関の問合せ先も記載しています。

SIA埼玉ガイダンス

検索



多文化子育ての会「Coconico」

代表 井上 くみ子さん



埼玉にゆかりがあり、グローバル社会で活躍している人を紹介するシリーズ「埼玉のグローバルさん」。今回はカナダやモンゴルでの海外生活を経て、現在、「多文化子育ての会Coconico」の代表として、さいたま市で、外国人のママたちと交流をしながら楽しく子育てをしている井上 くみ子さんにインタビューしました。

—外国人のママたちと交流するようになったきっかけは何ですか？

私はもともと自分の知らない世界に興味があり、好奇心も強い方でした。海外生活を経験したくて、カナダで現地ガイドとして働いたり、モンゴルの小学校で日本語教師として働いたりしました。

5年ほど前、近くの図書館での「多言語おはなし会」に、子どもを連れて行きました。そこでモンゴルの方と出会い、Coconicoに誘われたのが始まりです。

Coconicoは、外国人親子の仲間作りの場、情報交換の場、相談の場、学びの場、笑顔の場となっています。日本語ができてできなくても、自国の話や子育てのこと、自分の経験

や近所のお店のことなど、話がつきることがありません。みんな国は違いますが、違うことを認め合い楽しんでいます。私が一番楽しませてもらっているかもしれませんね。

—これからどのような社会になってほしいですか？

日本に来ている外国の方々も、みんなとても魅力的です。彼女たちが持っている本来の力を日本でも発揮してほしいと思っています。Coconicoでは、図書館での多言語おはなし会や、お料理教室、文化紹介など、活躍できる場を一緒に考えています。イキイキと自国のことを話すママの姿はキラキラと輝いていて、子どもにとっても素敵な自慢のママにな

るに違いありません。

Coconicoでは、日本語の勉強もしますが、幼稚園や学校のプリントを持ってくる人もいます。それは、他に聞く場所がないからです。Coconicoが特別な場所ではなく、友達や先生、近所の人、誰にでも聞けるような社会になってほしいと思っています。一緒に出かけたり、地域のイベントに参加したり、ちょっと相談したり、お願いしたりされたり、そんな当たり前のことが当たり前になる日本人が増えて、外国の人にとっても住みやすいまちになることを願っています。